CLOVER

KAEDE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＣＬＯＶＥＲ

【Ｎコード】
Ｎ４２３０Ｅ

【作者名】
ＫＡＥＤＥ

【あらすじ】
覇王樹と呼ばれる大樹が中心にある町『セントラル・天草』で起きる物語。主人公の御剣刹那はいつもと変わらない日々を過ごしていた。自分の中に『覇王』と呼ばれている『アギト』が目覚めるまでは・・・・・・・・・・・・・天草学園を中心としたストーリー。ラヴコメ、アクション、シリアス、感動を取り入れていこうと思います。

プロローグ（前書き）

プロローグです。投稿は少し遅いと思いますが、よろしくお願いします。

プロローグ

今は夜、ここは大きな大樹『覇王樹（はおうじゅ）』が中心にある町。
『セントラル・天草』

グルルルルルルゥウ・・・・・・・・・・・・・・

その覇王樹の側にある学園『天草学園』の屋上でまるで獣が唸っているように音を発てる覇王樹を見つめる2人の男女がいた。

「久々にこの町にも来たが、この木も校舎と同じくらいになってたとはなぁ」
「現在『神気（しんき）』の密度も向上しています」
「そっかぁ、そろそろ『あいつ』も目ぇさまして来っかね？」
「確率としたら高いです」

背が高くかっこいぃといえる顔立ちと金色に染めた短めの髪の男。
和風美人のような綺麗といえる顔立ちと少し青く長い髪をリボンのようなものでポニーテールにしている女。

「刹那は元気にしてっかなぁ？今頃何してんだろ」
「あいつが狙っている方ですよね？」
「あぁ、柊（ひいらぎ）はどう思う？」
「綺麗な方かと、妹君ですか？」

「ぷっ、はははは っ！刹那は男だよ。まぁ俺の弟分だ」
「・・・・・そうでしたか。分かりませんでした。あいつに魅入られないでしょうか？」
「ま、刹那はいい奴だし問題ないだろ」
「そうですか。貴(たか)さんがそこまで信用する方なら問題ないでしょう」

ピキンッ

周りが静まり学園を四角い何かが囲んだ。
「・・・・『虚界(きょかい)』が発生しました。『魔怒(マッド)』も大量に出てきました」
「分かってる。ややこしいなマッドがこんだけ多いからには『鬼屍(きし)美(み)』もいるだろうしな」
「倒せばいいことです」
「だな。んじゃ一仕事すっかっ！！」

「はい」

そういった2人は屋上から飛び降り闇に消えた。

覇王樹は月に照らされ淡く光る。

その中にまさしく覇王と呼ばれる『獣』を秘めながら・・・・・・・・・・

プロローグ（後書き）

では、また次回。

１Ｔｉｍｅ：始まりの朝（前書き）

やっぱ更新がおそめですよね。すいません。
今後もがんばります。

1Time：始まりの朝

ピピピピピピピッ・・・・・・・・・・・・・・・・・

「う～。んぁ？」

目覚まし時計の機械的な音が鳴る朝、1人の青年がベットの中で目覚める。

「くぅあぁ～・・・・　朝かぁ、起きなきゃ」

ムクリッ

「ん～静流(しずる)さん起こさなきゃ。準備、準備」

そう言って青年は着替えをし始めた。

青年の灰色の髪がサラサラと風になびいていた。

隣の部屋で未だ寝ているだろう女性を起こしにいく。

「静流さーんっ、起きてくださーいっ」

シーン・・・・・・・・・

「はぁ～、やっぱ起きてるわけないかっ」

スゥ～

息を少し吸う。そして

ボソッ

「おかあさ～ん」

ドタンッ！

バタバタッ

バタンッ！！

「せっ、刹那君今お母さんって言っ」

「おはよう静流さん」

「はれ？」

「朝ごはん準備しますから着替えてください？」

「むぅ～、はぁ～い」

はい、おはようございます。御剣刹那（みつるぎせつな）です。
ここセントラル・天草にある天草学園の生徒で１７歳です。
今はわけあってこの土方静流（ひじかたしずる）さんの家でお世話になってます。

「朝ごはんの用意できましたよ」
「ありがとぉ」
「まだ眠いですか？」
「うん、何で私って朝苦手なんだろうなぁ？」

静流さんは少し紫色をした腰あたりまで長いロングヘアーをなびかせた。

「体質じゃないんですか？」
「ふふっそうかも」

おっとりと和風美人のような静流が微笑む。

「ふぅごちそうさま、刹那君学校の時間じゃない？」
「そうですね、そろそろ桜がくると思うんですが」
「ねぇねぇ、刹那君。桜ちゃんとは付き合ってるの？」
「んな！？」

「だっていつも送り迎えしてるでしょ？」
「つっ通学路が一緒なだけですよ」
「えぇ～刹那君みたいな美人さんならもてるでしょ？」
「俺男ですよ？」

「でも、前も女の人と間違えられたじゃない」
「いや、あれはその・・・・・・」

「で、桜ちゃんとは？」
「桜は俺の友達ですよ」

「あたしが何だって？」

「！？」
「あら、桜ちゃん」
「おはよう刹那、静流さん」
「びっびっくりした。どっから入ってきたの？」

「失礼ね、ちゃんと玄関から入ってきたわよ」

そこには黄色く肩下まで長い髪をリボンのようなもので一部分だけツインテールにした少女が立っていた。

「ねぇねぇ、桜ちゃん」
「何ですか？」
「刹那君とは付き合ってるの？」

「！？」

ボンッ！！

桜が赤くなった。なんか発火したかのように。

「なっなに言ってんですか！刹那とは友達ですよ。と・も・だ・ち」
「なにもそこまで強調しなくても」
「え！？いっいや、嫌いって言う意味じゃないよ？」
「大丈夫、分かってるよ。嫌いだったら毎日来ないだろ？」

「もちろんよ」
「じゃぁ好きなの刹那君のこと？」
「はいっ！！」
「・・・・・・・・うふふっ」

カアァァァァァ

再び赤くなる桜であった。

「？、どうした？」
「しっ静流さんはどうなんですか？」
「私はお母さんだもの好きに決まってるわよ」
「お母さんって静流さんまだ２０歳じゃない」

「何か言った刹那君？」

キッパリッ

「いえなんでも」
「なら私はもっと好きですっ」

「？」

「あらあら」

「もうっそういうことでいぃの！！」

「？は、はいっ」

（何故に俺が怒られる？）

「それより学校はいぃの？」

「「あっ」」

時計はすでに８時半をさしていた。

ちなみに学園の閉門は８時５０分。ここから学園までギリギリ２０分…………………………

「「いってきまぁすっ！！」」

「あらあら、行ってらっしゃい」

《通学路》

「そういえば健護(けんご)のやつは？」
「メンドイから置いてきちゃった」
「おぃおぃ、まぁぃぃけどさ」

2人は通学路を少し早めのスピードで歩いている。

「ねぇ刹那」
「どうした？」
「刹那は静流さんみたいな大人な女の子が好きなの？」
「はい？」

訳が分からず聞きなおしてしまった。

「なんとなくよ」
「ったく、静流さんは綺麗だし。桜は桜でかわいぃって思うんですが」

ボンッ！！

本日3回目のトマト状態。

「かっかわいぃってっ、そのっあっもっもぉいぃわ分かったから」
「？、あぁ」

（か、かわいぃっていってくれた。刹那に・・・・・・・・）

「ほらっ、行くぞ」
「わ、分かってるわよ」

そして2人は学園へと足を運んだ。

１Ｔｉｍｅ：始まりの朝（後書き）

ではまた。次回で。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4230e/

CLOVER

2010年11月29日08時25分発行